

人間文化学科通信

号外③

学科通信号外第3号は高橋ゼミ（日本史）の紹介です。江戸時代以降の論文や史料を読んで学びを深め、自分の好きなテーマで研究に取り組んでいます。今回は、現在取り組んでいる卒業論文のテーマについて、4年生が語ってくれました。



◇日本軍兵士を中心にした精神疾患（木村灯里）

私が現在研究しているものは、「日本軍兵士を中心にした精神疾患」についてです。研究しようと思った背景には、うつ病などの精神障害で労災認定された人が昨年度883人であるというニュースを目にしたり、SNSで精神疾患の方のツイートが流れてくることがあったからです。それに加えて近代史に興味があったため、近代を調べてみようと思ったとともに、厳しい環境で過ごしてきた日本兵はどうだったのかと考え、このようなテーマ設定にしました。この研究で明らかにしたいことは、軍国主義である当時の大日本帝国と、当時の人々（主に兵士）が精神疾患についてどのように捉えていたのかということです。また、日本軍の兵士が精神疾患になった際はどう対処していたのかも調べていきたいと考えています。

現在は、当時認知されていた精神疾患には何があるのかを調べています。今の時点では、当時からうつ病のようなものや、躁状態の症状が見られていたということが明らかになっています。これからはさらに、当時どのような症状があったのかを調べていきたいです。また、軍医や兵士の日記なども読み進め、当時の人々の精神疾患の認知や認識についての研究も進めていきたいです。

◇江戸時代の名産品がもたらした観光産業への影響（佐藤ひより）

私は卒論に向けて、江戸時代の仙台の名物・名産品に着目した産業の変遷についての調査を行っています。江戸時代は庶民文化が豊かになり、信仰や観光を目的とした旅が盛んになり始めた時代でもあります。本研究では、旅が観光化したと言われる中で、それが産業に影響を与えることがあったのだろうか、そもそも江戸時代では現在のお土産のような観光産業と呼べるものが存在していたのか、明らかにすることを目指しています。まずは仙台を中心に、生産された名物・名産品をピックアップし、やがて東北の他の地域との比較を予定しています。また、名産品と観光の関係を明らかにするために、当時の旅日記を読み解き、旅人の記録から地域の特色や、食料事情を把握し、産業の実態に迫ります。

社会が大きく変化した江戸時代において、多角的な視点から考察を深め、産業と観光の関係性を明らかにすることで、現代の観光産業にも通じる新たな発見を目指しています。調査の過程では、江戸時代の仙台の人々の生活や文化に関する知見を深めることができ、とてもやりがいを感じています！